

【労働衛生の見積り方の例（暑熱編）】

労働災害の中でも熱中症に対するリスクの見積り方の一例として、①有害性のレベル、②作業の程度の2つの要素を用いた『マトリクス方式』でリスクを見積る方法を紹介し

ます。
この方法は、乾球温度^{*1}と湿球温度^{*2}から簡易的に有害性のレベル(表2-6)を、作業内容から作業の程度(表2-7)を評価し、この2つの評価を使用して表2-8のマトリクス表からリスクを見積るものです。

なお、有害性のレベルについては、さらに輻射熱を加味したWBGT^{*3}(湿球黒球温度：Wet Bulb Globe Temperature)からより精度の高い評価をすることもできます。

表2-6 有害性のレベル

有害性のレベル	乾球温度	湿球温度	WBGT 指数
A	35℃以上	27℃以上	31℃以上
B	31～35℃	24～27℃	28～31℃
C	28～31℃	21～24℃	25～28℃
D	24～28℃	18～21℃	21～25℃
E	24℃まで	18℃まで	21℃まで

表2-7 作業の程度

作業の程度	作業内容(例)
極高代謝率作業	全身の激しい動作 (下記の動作で呼吸が荒くなる動作等)
高代謝率作業	全身の動作 (例:抱き上げる、まわす、引く、押す、投げる、歩く等)
中程度代謝率作業	上肢の動作 (例:組み立てる、検査する、塗る等)
低代謝率作業	手先の動作、足先の動作 (例:書く、タイピング、足でペダルを踏む等)

表2-8 リスクの見積り

作業の程度 有害性の レベル	極高代謝率	高代謝率	中程度代謝率	低代謝率
A	高	高	高	高
B	高	高	高	中
C	高	高	中	低
D	高	中	低	低
E	中	低	低	低